

朝日地域振興計画

2024年度 ▶ 2028年度

中山間地域の暮らしを守り、
支える取組を進めます

2024(令和6)年3月 鶴岡市朝日庁舎

目 次

1. 計画策定の趣旨	1
2. 朝日地域の特性・概要	2
3. 市民との対話や社会情勢等の変化から得られた課題	5
(1) 現計画の取組にかかる整理と検証	
(2) 市民との対話等から得られた課題	
4. 朝日地域の目指す方向性	8
5. 施策の基本方針、主な施策及び具体的な展開方策	9
基本方針 1 中山間地域における定住環境の支援	
主な施策 (1) 地域防災力の確保と防災基盤の強化	
主な施策 (2) 次世代へつなげる活力を育む地域コミュニティづくりの推進	
主な施策 (3) 地域の実情や需要に応じた地域内交通の確保	
主な施策 (4) 豪雪地帯における克雪対策への支援	
主な施策 (5) 地域で支え合う福祉支援体制の充実	
主な施策 (6) 森林資源と自然環境を活用した自然環境教育の実践	
主な施策 (7) 中山間地域の課題解決に向けたデジタル技術の活用	
基本方針 2 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興	
主な施策 (1) 中山間地域における持続可能な農業経営への支援	
主な施策 (2) 農地・山林保全による農林業生産活動と農村集落機能の維持	
基本方針 3 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興	
主な施策 (1) 通年で選ばれる観光拠点施設の環境整備と人材育成の支援	
主な施策 (2) 観光団体等との連携による地域資源活用の推進	
参考資料	20

1. 計画策定の趣旨

鶴岡市は、2005（平成 17）年 10 月の合併以後、地域で築かれてきた地域特性や地域固有の資源を生かしたまちづくりを進めるため、2008（平成 20）年 3 月に「地域振興ビジョン」を策定しました。

その後、2014（平成 26）年 3 月には、鶴岡市総合計画（後期基本計画）を策定するとともに、地域ビジョンの見直しを行い、「朝日地域振興計画」を策定しています。重点的に取り組むべき分野や政策課題を定め、地域活性化の個別プロジェクトをまとめました。

さらに、2019（平成 31）年 3 月には、第 2 次鶴岡市総合計画の策定に合わせて「朝日地域振興計画」を新たに策定し、地域が抱える課題の解決に向けて、「中山間地域の暮らしを守り、支える取組」を重点方針に据え、克雪対策などの定住環境の整備・支援や、地域特性を活用した農林業の振興及び観光の振興の取組を進めてきたところです。

しかしながら、地域を取りまく環境は、人口減少のさらなる進行や新型コロナウイルス感染症の流行を契機とした生活様式の変化や働き方の多様化、気候変動による自然災害の頻発など、様々な課題が複雑で複合的なものとなっている現状にあります。

こうした社会情勢の変化や、地域が抱える課題への的確に対応する地域づくりを進めるため、第 2 次鶴岡市総合計画後期基本計画の策定に合わせて、新・朝日地域振興計画を策定することとしました。この計画においては、朝日地域振興懇談会をはじめとした地域住民との対話の中から、朝日地域の抱える課題を整理し、課題解決に向け『中山間地域の暮らしを守り、支える取組』を重点的な取組方針に掲げ、「中山間地域における定住環境の支援」「森林資源、自然環境等を活用し、中山間地に特化した農林業の振興」「自然、文化、風土など地域資源を活用した観光の振興」の三つの基本方針を柱に据えて策定します。

計画期間は、2024（令和 6）年度から 2028（令和 10）年度までの 5 年間とし、この計画に基づき、朝日地域の更なる振興に向け、地域住民や各種団体など様々な主体との協働・連携を図りながら、持続的な地域づくりを目指して取組を展開し、特色あるまちづくりを推進していきます。



朝日地域に春を告げる花「かたくり」

2. 朝日地域の特性・概要

(1) 自然及び地理的条件

朝日地域は鶴岡市の南端、庄内の最南端に位置する地域で、面積は569.17平方キロメートルと鶴岡市全体1311.53平方キロメートルの4割強を占める地域です。その大部分は山岳地帯で、山地面積は地域の約94%を占めており、うち60%が国有林であるとともに、磐梯朝日国立公園に指定されています。

東側には湯殿山、南側には朝日連峰の以東岳、西側には温海地域と接する摩耶山に挟まれた中、東の梵字川、西の赤川が地域を縦貫し、合流後は庄内平野の水源となっています。河川沿いのY字に細長く集落が点在していることとともに、降雪量が極めて多いことが特徴で、山間部では積雪が3mを超える地域があります。

(2) 歴史的條件

朝日地域には、最も古いもので17,000年前といわれる旧石器時代の遺跡「越中山遺跡」をはじめ、月山、羽黒山、湯殿山の山岳信仰に関わる歴史が多く残っています。

また、1,200年前から開かれたとされる庄内と内陸を結ぶ出羽の古道「六十里越街道」が今も史跡とともに保存されています。

(3) 社会的條件

朝日地域全体として、世帯数、人口共に大きく減少が続いています。

5年刻みのデータにおいても、昭和35年の世帯数・人口を100とした場合、朝日地域全体では60年間で世帯数 60.7、人口 32.1 と大きく減少しています。特に大鳥地区は、世帯数 14.2、人口4.8と極めて大きく減少していますが、これは昭和54年の大泉鉱山寿岡選鉱場及び柘形採鉱場閉山が要因としてあげられます。

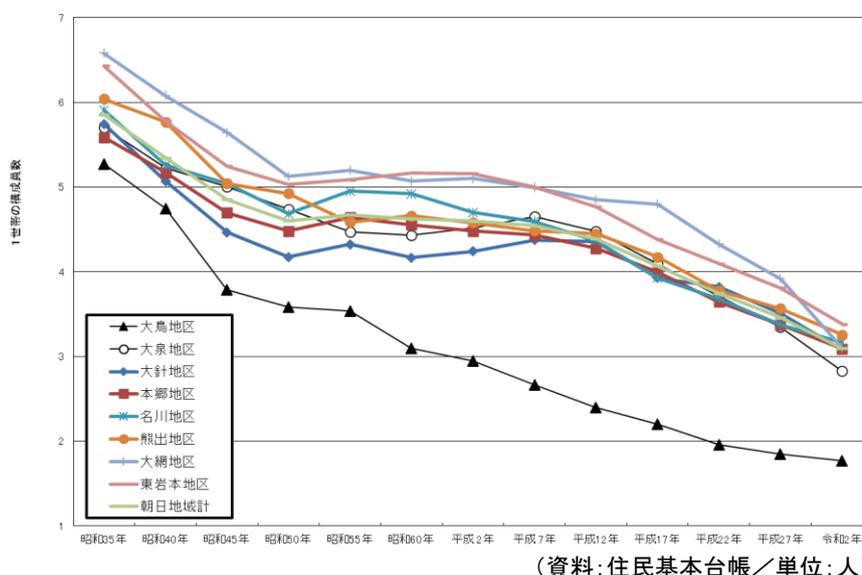
地域全体としては、地域内の農業や建設業といった雇用を支える産業の衰退を受け、収入を確保するため市内外への転居等も多く、純粋な自然減以外の大きな要因と推察されます。

また、朝日地域での一番大きな課題は、1世帯当たり人員が大きく減少していることです。人口減少率に対し世帯数の減少率が低く、1世帯当たりの構成員数が昭和35年の5.85人から令和2年の3.10人と大きく減少しています。あわせて、高齢化率も65歳以上人口が全市平均 35.1%に対し朝日地域が 44.2%と市全体より高い数値を示していま

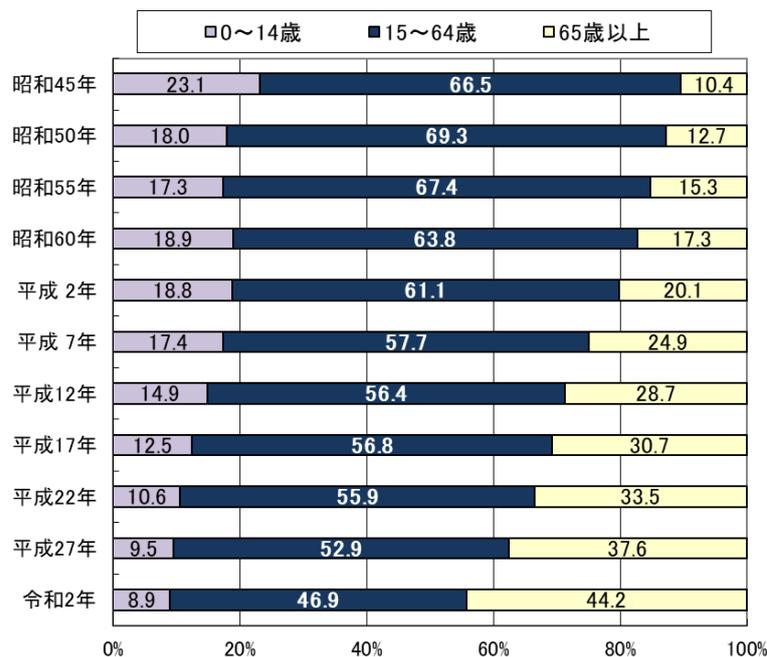
す。かつ、年少人口も市全体11.0%に対し朝日地域8.9%と、より少子化が進んでいる状況にあります。世帯あたりの人口も含めた少子高齢化に伴う人口減少により、今後、世帯単位で行っていた農業や地域の共同作業等を支えることが困難となる可能性を示唆していると考えています。

交通機関としては、庄内交通が路線バスを運行していますが、人口減少や自家用車の普及などが要因となり利用者数が減少し、上田沢線及び大網線ともに減便が進んでおり、減便に伴う廃止代替として平成29年度から平日各2便市営バスの運行で補完している状況です。令和5年10月からは、庄内交通路線バス大鳥線の上田沢～大鳥区間が運行休止となりました。

(昭和35年から令和2年まで)朝日地域世帯員数の推移



朝日地域全体 年代別人口構成の推移



(4)総論として

朝日地域は豊かな森林資源に恵まれ、自然と調和した歴史と文化が育まれてきた地域です。しかし、山間地が多く全国的にも有数の豪雪地帯であるうえに、学校・病院等の施設への距離も遠く、平野部に比較して気象・風土・地形に起因する不安要素も大きいことから厳しい定住環境にあります。

特に、市全体でも人口減少や少子高齢化が進む中、中山間地域である朝日地域は特にその傾向が顕著です。また、通院・通学、買い物等、生活交通確保のために路線バス減便に伴い市営バスの運行で補完している状況です。



3. 市民との対話や社会情勢等の変化から得られた課題

(1) 現計画の取組にかかる整理と検証

① 中山間地域における定住環境の支援

過疎・中山間地域のコミュニティ組織への支援として、住民主体の地域の実情に応じた集落対策として、地域ビジョンの策定への支援を行っています。平成28年度から大網地区で取り組んだ「小さな拠点」づくり推進事業においては、地域の将来像として策定された地域デザインの具現化に向けた活動に支援し、持続可能な地域運営組織の育成と活動拠点の整備を進めてきました。

また、克雪対策の取組に加えて、地域内交通対策として市営バスの運行や高校生等の通学費への支援を通じて、安心・安全な生活環境の整備を推進してきました。

さらには、朝日地域の豊かな自然環境を活用し、自然環境教育の実践施設である大鳥自然の家における環境教育プログラム開発を支援し、多くの市民に対して自然環境への理解を深める機会を創出しました。

このような取組を進める中で、令和3年度には地域の若者による新たな団体が結成され、地域と連携した活動を始めると、地域を支える人材育成につながる取組の効果が表れ始めています。しかし、人口減少・少子高齢化の傾向が顕著で、長年維持されてきた集落機能が脆弱化し自治会運営・共同作業等、地域維持のための活動が困難となる可能性があるため、関係人口の掘り起こしを含め、地域を支える人材の育成・確保が急務であると考えます。

② 森林資源、自然環境などを活用した中山間地に特化した農林業の振興

山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうの生産拡大に加え、月山ワインや朝日産そば等の販路拡大と消費拡大への取組に支援し、農産物・特用林産物・加工品などの生産流通体系の整備や、販路・ファンの拡大に一定の効果がありました。

しかし、コロナ禍による月山ワイン商品の販売不振やイベントの中止に加え、高齢化による生産意欲の低下など、地域内の農業生産活動が縮小傾向にあります。

今後は、若者農業者の交流、活動への支援等を引き続き実施し、地域農業の担い手の育成や確保、デジタル技術などを活用した鳥獣害被害対策、地元農産物や加工品の認知度向上、消費拡大に取り組むことで、将来にわたり農業生産活動を継続するための環境整備を進める必要があると考えます。

③自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

豊かな自然や山岳信仰などの地域資源を生かした観光振興として、通年型観光の拠点施設である湯殿山スキー場のリフト改修をはじめ、六十里越街道のガイド養成やインバウンドに対応したホームページの拡充、観光客の二次交通確保に向けた取組や登山環境の整備など、関係団体と連携して観光客の受入環境の整備を進めてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症流行の影響で誘客数が大幅に減少し、観光事業に関わる多くの活動が停滞し、担い手不足の課題が顕在化しています。

今後は、豊かな自然環境や食文化などの観光資源の保全とそれらを組み合わせた観光コンテンツの磨き上げを図り、SNSなどによる情報発信を促進するとともに、観光客のニーズを捉えた受入体制の整備が必要になっています。また、観光事業の新たな担い手として地域の若者や女性など、多様な人材が活躍できる環境づくりと人材育成への支援等が必要であると考えます。

(2)市民との対話などから得られた課題

① 住み慣れた地域に安心して生活できる環境の整備

前述のとおり、市全体でも人口減少や少子高齢化が進む中、中山間地域である朝日地域は特にその傾向が顕著で、山林や農地、雪下ろし等を含めた建物等の維持はもとより、長年維持されてきた集落機能が脆弱化し自治会運営・共同作業等、地域維持のための活動も困難となっています。今後ますます世帯員の減少と高齢化が進むことが予想され、地域に多様にかかわる地域外の人材、いわゆる関係人口の掘り起こしや拡大を含め、地域づくりを支える人材育成・確保が急務となっています。

また、学校・病院等生活利便施設への距離も遠く、平野部に比較して気象・風土・地形に起因する不安要素も大きいことから厳しい定住環境にあります。

あわせて、農林業等の低迷が続く中、後継者や担い手不足により農地・山林の荒廃が進み、有害鳥獣被害の増加も顕著で、耕作意欲の減退を招いている状況です。

今後も住み慣れた地域に住み続ける上では、住民一人ひとりの安全・安心が確保され、住み慣れた地域の中で健康に生活できる環境整備や、産業の振興、地域コミュニティの維持再生、自然環境や観光施設等の地域資源の保全・活用を通じた交流人口の拡大による、多角的な地域活性化の取組を進める必要があります。

また、デジタル技術の活用により、時間と場所の制約を軽減することで生活の向上や地域コミュニティの活性化に役立つことが期待されるため、中山間地域の課題解決を図るために、デジタル技術を取り入れたモデル活用を進める必要があると考えます。

② 克雪対策への支援

朝日地域は全国でも有数の豪雪地帯であり、冬期間の雪対策は必要不可欠で重要な課題の一つです。

豪雪と言われた平成29年度の場合、鶴岡市豪雪対策本部資料によると、鶴岡公園の最大積雪深が83cmであるのに対し、庁舎周辺の立岩で255cm、大網・大鳥地域でそれぞれ374cm、376cmと市中心地と比較し、3倍から4.5倍の積雪量が観測されました。

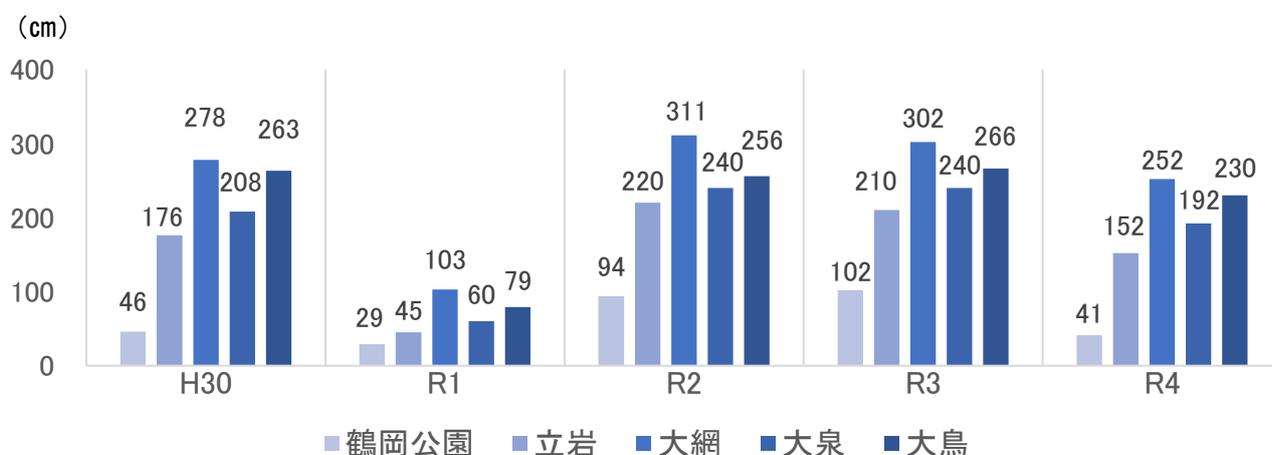


また、平年並みといわれる平成30年度、令和2年度の最大積雪深も、鶴岡公園、立岩、大網、大鳥の各観測箇所と比較した場合、約2倍から6倍の積雪量が観測されています。

さらに、日々の除排雪作業や雪下ろしの判断基準となる降雪量累計も、鶴岡公園の537cmに対し、立岩で1,101cm、大網・大鳥地域でそれぞれ1,721cm、1,660cmと極めて多く、1日当たりの降雪量も大鳥で最大81cm、立岩でも68cmと豪雪といわれた鶴岡公園の最大積雪量83cmとほぼ同量の雪が24時間で降る日があります。

高齢化が進む中、豪雪により玄関前除雪や屋根の雪下し等、除排雪作業のための労力が地域住民にとって大きな負担となつてのしかかることから、住み慣れた地域に定住し続ける上での大きな課題となっています。

〈 年度別最大積雪深(単位:cm) 〉



4. 朝日地域の目指す方向性

朝日地域は豊かな森林資源に恵まれ、自然と調和した歴史と文化が育まれてきた地域です。一方で、全国的にも有数の豪雪地帯であり、山間地という地理的条件上、平野部と比較すると厳しい住環境にあり、人口減少や少子高齢化の傾向が特に顕著となっています。

地域住民がこれからも住み慣れた地域で安心・安全にいきいきと生活するための取組として、定住環境の整備支援と農林業及び観光業での産業振興を推進します。

「 中山間地域の暮らしを守り、 支える取組を進めます 」

基本方針1 中山間地域における定住環境の支援

住民が住み慣れた地域で安全にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や住民による生活基盤の維持、強化への支援に加え、地域づくりを支える人材育成・確保やデジタル技術のモデル活用などにより、中山間地域の暮らしを守り支える取組を推進します。

基本方針2 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策や、地域農業の担い手育成と確保、森林資源を活用した振興方策により農地や山林の荒廃を食い止め、農林業の持続的な振興を図ります。

基本方針3 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせ、地域内の自然や歴史、伝統文化、伝統食をはじめとする食の魅力を存分に楽しめる環境を整備し、交流人口の拡大による観光振興を推進します。



5. 施策の基本方針、主な施策及び具体的な展開方策

基本方針Ⅰ 中山間地域における定住環境の支援

地域住民が住み慣れた地域で安全安心にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や支援を行います。

また、住民による生活基盤の維持、強化に係る取組を支援するとともに、地域課題の解決に地域が主体的に取り組める環境づくりに向けて、地域を支える人材の育成・確保を進めます。

あわせて、地域資源である自然環境を生かした次世代を担う人材の育成や、デジタル技術のモデル活用などを推進します。

主な施策(1) 地域防災力の確保と防災基盤の強化

豪雪、風水害などの災害発生時に孤立集落となる危険性のある地域に対して、災害対応力を発揮できるよう自主防災組織の活動を支援するとともに、消防施設などの整備を推進します。

① 自主防災組織の育成支援と地域防災拠点の機能強化

災害対応力を十分に発揮できる活動組織にするため、自主防災組織を対象に訓練等を通じて育成を支援します。あわせて、消防分署からの距離が遠く消防組織による火災対応に時間を要する可能性がある地域に対し、住民自らが初期消火を行うことができる体制づくりに向け、コミュニティ助成事業の制度周知を図り、消防施設などの整備を推進します。

また、朝日庁舎と消防署朝日分署の合築による地域防災拠点施設としての整備を推進します。

主な施策(2) 次世代へつなげる活力を育む地域コミュニティづくりの推進

地域の実情に応じた既存集落の維持を支援します。また、広域的な視点による集落間の連携強化をめざし、地域課題解決に向けて主体的に取り組む地域団体や若者組織、持続可能な地域運営組織の育成を支援するとともに、活動拠点となるコミュニティ施設などの整備を推進します。あわせて、交流事業や地域資源を活用した関係人口※の創出・拡大と人材育成を推進します。

※関係人口

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

① 地域の実情に応じた集落対策の推進

既存集落を維持するための施策とともに、住民主体による地域の実情に応じた集落対策を推進します。また、共通の課題を抱える集落間の“つなぎ役”となる集落支援員※を配置して、広域的な視点から集落間の連携強化をめざします。

あわせて、住民同士の話し合いの促進や、地域ビジョン・集落ビジョン※策定への指導・助言とその実現に向けた実践活動を支援します。



大泉地域ビジョン策定ワークショップ

※集落支援員

総務省の外部人材活用制度のひとつで、地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関して、ノウハウや知見を有した人材を、地方自治体が委嘱し、集落の状況や集落点検の実施、住民同士の話し合いなどを促進するもの。

※地域ビジョン・集落ビジョン

各住民自治組織で、将来を目指す姿と実現に向けた取組をまとめたもの。

② 地域や若者が主体となり地域課題解決に取り組む仕組みづくりの推進

地域の若者団体が取り組む地域づくりへの活動を支援するとともに、若者同士のネットワーク形成を通じた次世代につなげる人材の育成を支援します。

また、持続可能な地域課題に取り組む地域運営組織の育成を支援するとともに、地域づくりへの幅広い世代の参画により、地域の多様な人材が活躍できる環境づくりを支援します。



若者団体による市観光施設活用イベント



地域住民と朝日中学校生徒による「地域語り合い」

③ 広域コミュニティ組織の運営支援と拠点施設の整備

各自治会、団体等の自主的活動を尊重しながら相互の連携強化を図り、広域コミュニティ組織が行う地域課題解決に向けた学習・研修等の実施や住民ニーズに沿った講座等の開催により、地域づくりや生きがいを推進します。

また、住民が集う拠点施設として広域コミュニティセンターの維持管理を行うとともに、施設の整備を計画的に推進します。

④ 地域資源を活用した交流促進と関係人口の拡大

豊かな自然がもたらす恵みと先人たちの創意工夫から育まれた食文化や、山の暮らしなどの山村生活文化を守り継承するため、地域資源を活用した多様な主体が取り組む交流事業へ支援し、交流人口の拡大を足掛かりとする関係人口の創出・拡大を推進します。

また、国際的視野を育む青少年等の交流事業により、次世代を担う人材の育成を支援します。



国登録無形民俗文化財「庄内の笹巻製造技術」



地域での「枥の実アク抜き」体験

主な施策(3) 地域の実情や需要に応じた地域内交通の確保

学校、病院などの生活利便施設への交通を確保するため、地域の実情や需要に応じた、利用者の視点に立った地域内交通対策を推進します。

① 地域内生活交通の確保と調査・研究への支援

住民が参画する朝日地域市営バス利用拡大協議会が主体となり、地域住民や利用者への調査など地域内交通の在り方について調査・研究を行う取組を支援し、地域の実情や需要に応じた市営バスの運行を含め、利用者の視点に立った地域公共交通対策を推進します。



朝日地域市営バスの運行



地域内交通のあり方を研究

② 高校生通学費への支援

遠距離通学者への定住支援として、高校生等に対する支援とその手続きのデジタルワンストップ化により保護者の負担軽減を図ります。

主な施策(4) 豪雪地帯における克雪対策への支援

雪による経済的及び精神的負担を軽減する克雪対策の取組を進め、定住環境の整備を推進します。

① 克雪住宅・克雪小規模生活道整備への支援

雪による住民の負担軽減を目的として、克雪住宅の整備や生活道整備への支援を行い、引き続き克雪対策事業を推進します。

② 地域と連携した除排雪の推進

冬期間においても住民が安全に暮らせるように、地域や関係団体等と連携し高齢者等の除排雪の負担軽減のため、協働による除排雪作業の体制づくりを推進します。あわせて、雪下ろしや除雪中の雪害軽減に向けた研修や安全対策の普及を図ります。



住民共助による高齢者等の玄関前除雪

主な施策(5) 地域で支え合う福祉支援体制の充実

近隣住民による地域支え合いの仕組みづくりや、福祉団体等関係機関との連携による地域資源を活用した包括的な取組を通して、地域住民が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らし続けるため、地域福祉支援体制の充実を図ります。

① 近隣住民による支え合いの仕組みづくりへの支援

住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らしていくため、介護予防事業・健康増進事業を推進するとともに、地域住民のニーズに応じた住民主体による地域支え合い体制の構築に向け、交流や様々な活動を通し地域とのつながりを持つ「通いの場」の運営を支援します。

また、民生児童委員をはじめ朝日地域の福祉分野を担当する関係機関の連携により、地域福祉課題解決のための相談支援体制の充実を図ります。



通いの場「東部ふれあいサロン」

② 地域資源活用による包括的な取組の推進

地域資源を活用した源泉活用事業等の事業者への支援を行うとともに、地域ケア会議等の開催により関連する福祉団体や関係機関等との連携を強化することで、地域福祉支援体制の充実を図ります。



かたくり温泉の利活用

③ 国保直営診療施設の機能維持

住み慣れた地域で子どもから高齢者までが安心して国保直営診療施設(上田沢診療所・大網診療所)を利用することができるように、プライマリ・ケア※の診療が可能な医師の確保、施設設備の維持や計画的な改修、医療機器等の整備を進めるとともに、高齢化の進行により通院が困難な高齢患者や在宅療養患者の増加が見込まれることから、患者輸送体制を維持します。

※プライマリ・ケア

身近にあって、何でも相談に乗ってくれる総合的な医療のこと。

主な施策(6) 森林資源と自然環境を活用した自然環境教育の実践

豊かな森林資源と自然環境を活用し、次世代を担う子どもたちをはじめとした市民への自然環境教育の実践を進めます。

① 自然に親しみ触れながら学ぶ

自然環境教育の推進と実践

豊かな森林資源と自然環境を活用した活動プログラムを充実させるため、幅広い世代の研修施設として目的に沿った自然環境教育プログラムの開発を行い、自然環境教育の実践を通じた人材育成を推進します。



なめこの菌植えや収穫体験のプログラム開発

② 「大鳥自然の家」の整備

自然環境教育実践施設として、「大鳥自然の家」の環境整備を計画的に行い、山村文化や自然環境への理解を深め、人材育成を推進します。

主な施策(7) 中山間地域の課題解決に向けたデジタル技術の活用

中山間地域の課題解決に向け、デジタル技術を活用した市民サービスの提供、地域づくり活動での活用支援、地域デジタル人材の育成を推進します。

① デジタル技術のモデル活用

朝日庁舎再整備に合わせ、デジタル技術を活用した電子申請を拡充し、事務手続きの簡素化を推進します。

また、中山間地域の課題解決に向け、地域づくり活動でのデジタル活用を支援するとともに、デジタルデバインド(情報格差)の解消につながる地域デジタル人材を育成し、デジタル機器やサービスなど地域で学び合える環境づくりを進めるための人的ネットワーク構築を支援します。



地域デジタル人材育成の講習会



地域に出向いての出張スマホ教室

基本方針2 森林資源、自然環境などを活用し、 中山間地に特化した農林業の振興

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策を推進し、農産物の流通体系の整備、地域特産品の販売支援、特産品の開発、既存商品の価値向上に取り組むとともに、農地保全のための地域組織活動への支援などを通して、農村集落機能の維持をめざします。

また、広大な森林資源を活用した特用林産物の生産支援などを行い、山林の荒廃防止と資源循環をめざします。

主な施策(1) 中山間地域における持続可能な農業経営への支援

出荷手段を持たない高齢者などの生産者に対して支援を行うことで生産意欲を喚起し、生産量の拡大をめざします。また、朝日地域の特産である山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうを活用した月山ワインや山菜、朝日産そばなど、地域内農産物の生産振興や新たな特産品の開発と販売への支援、交流などによる販路拡大のための取組を推進します。あわせて地域農業の担い手となる若者農業者等の育成・強化を図ります。

① 地域内農産物・特用林産物の集出荷支援

産直施設を拠点として、出荷手段を持たない高齢者などへの集荷や市街地への移動販売を行い、地域内農産物や特用林産物の集出荷支援を進めることで、生産量の拡大を図ります。

② 地域内農産物の生産振興支援

山ぶどう、月山ワインについては、醸造用ぶどうの生産量確保と、良質なぶどう生産のために生産者に対する栽培支援を継続し、所得の向上につなげていきます。また、月山ワインの一層の普及・消費拡大に向け販売力向上の取組を支援します。

朝日産そばの振興については、新そばまつりなどのイベントを継続することにより、朝日産そばの認知度を向上させ価値を高めるとともに、消費拡大に向けて支援します。

さらに、地域農産物や特産品のふるさと納税返礼品への登録を推進し、ふるさと納税の返礼品に関する情報をはじめ、その返礼品を生み出す生産者や風土の魅力を発信していきます。



誕生から40年余り 地域特産の「月山ワイン」

③ 特産品開発・販売支援、交流による販路拡大

付加価値を向上させた特産品開発による6次産業化を進め、特産品の販売を支援します。また、国内友好都市との交流を通し、交流人口の拡大や特産品の積極的な販路拡大をめざします。

④ 地域農業を支える担い手等の育成・確保

若者農業者の研修機会を創出し、時代の変化に応じた担い手の育成を支援します。

また、ニーズに応じた多様な人材の確保を支援します。



若者農業者による「沖田なし」ほ場視察

主な施策(2) 農地・山林保全による

農林業生産活動と農村集落機能の維持

地域の共同活動による農用地、水路、農道などの適切な保全管理や持続可能な地域組織活動への支援を通して、農村集落機能の維持をめざします。また、特用林産物の生産量確保と販売につながる生産者支援を通じて、間伐材等の木材の活用を促し、山林の荒廃防止対策を推進します。あわせて、鳥獣被害防止対策への支援強化の取組を推進します。

① 農地保全のための地域組織活動への支援

日本型直接支払制度に取組む組織の広域化及び事務の一元化を進め、事務や活動の負担軽減を図ることにより、組織活動を継続させるための支援を行います。

② 鳥獣被害防止対策への支援強化

クマ、サル、イノシシなどの有害鳥獣被害防止対策への支援を強化します。

また、デジタル技術を活用した鳥獣被害対策について関係機関と連携し、地域住民との協力により取組を推進します。

③ 生産者支援による山林荒廃防止対策の推進

特用林産物の安定した生産量の確保、生産者の技術向上、販売量拡大のための支援を組み合わせ、加えて特用林産物生産への関心を高める取組を行います。

また、間伐材等木材の活用を促進し、山林の荒廃防止対策を推進します。



住民を対象にしたチェーンソー講習会

基本方針 3 自然、文化、風土など、 地域資源を活用した観光の振興

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせた通年型観光による誘客を推進します。

また、観光団体等との連携を強化し、地域にある自然や歴史文化、食の魅力を存分に楽しめる環境づくりを通して地域資源の高付加価値化を進め、地域の活性化につながる観光振興をめざします。

主な施策(1) 通年で選ばれる観光拠点施設の環境整備と人材育成の支援

通年型観光の拠点施設である湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村、道の駅「月山」月山あさひ博物村など地域の魅力ある観光資源の組み合わせによる誘客を図るため、計画的な環境整備を推進するとともに、拠点施設におけるインフォメーション機能の整備やガイドなどの人材育成を支援します。

① 通年型観光拠点施設等の整備推進

通年型観光の拠点施設である湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村、道の駅「月山」月山あさひ博物村をはじめとする観光施設について、計画的な修繕と整備拡充により老朽化した施設や設備の長寿命化を図り、適切な維持管理を行うことで、施設利用者の満足度を向上させ誘客を推進します。

また、湯殿山スキー場については、豊富な積雪量と地形を生かした多彩なゲレンデ環境の実現により、初級者から上級者まで楽しめる全国でも希少なスキー場であり、「R天国」※として魅力向上のための環境整備を進め、県内外からの誘客を推進します。

※R天国(アールてんごく)

湯殿山スキー場の豊富な積雪量とコンパクトな敷地を最大限利用して、ゲレンデの壁面を R(Radius) 形状(ハーフパイプの片側のようなイメージ)に造形し、ゲレンデ各所に数多く設置している。



湯殿山スキー場



道の駅「月山」月山あさひ博物村(案内図)

② インフォメーション機能向上と人材育成の支援

道の駅「月山」の機能を有効に活用し、あさひむら観光協会と連携して観光者のニーズに沿った情報発信を行うとともに、外国人旅行者の認知度向上につながる多言語対応の看板設置等を進め、インフォメーション機能を向上させます。

また、観光資源の魅力を効果的に発信するため、六十里越街道ガイドをはじめとする観光人材の育成を支援します。



六十里越街道を案内する「山船頭人」

主な施策(2) 観光団体等との連携による地域資源活用の推進

日本遺産の構成文化財である湯殿山や六十里越街道、大鳥池や以東岳をはじめとする朝日連峰の豊かな自然環境、また、地域の歴史から積み重ねられた生活様式、食文化など観光資源の複合的な活用を進めるとともに、近隣地域との連携により地域資源の魅力を高めて交流人口の拡大を図ります。あわせて、観光団体等と連携し、情報発信の強化と受入環境整備の取組を進めます。

① 地域資源の複合的な活用による

交流人口の拡大

多様な地域資源と点在する観光資源を複合的に活用し、四季折々の変化を感じられる自然体験や六十里越街道などの歴史文化の探求、特色ある食文化を楽しむ体験など、付加価値を高めた体験観光の取組を支援し、観光資源の保全を進めながら交流人口の拡大を図ります。



大鳥地区の自然を生かした「タキタロウまつり」

② 近隣地域との連携による広域観光の推進

庄内と村山を結ぶ六十里越街道を文化的資源として整備保存するため、鶴岡市と西川町の他、街道団体や国・県等と連携し、広域観光振興を通じた地域づくりを推進します。



「出羽の古道 六十里越街道会議」が行う広域連携事業

③ 観光情報発信の強化と受入体制の整備

あさひむら観光協会や観光団体等と連携し、SNSの活用による情報発信の強化に取り組んでいきます。

また、六十里越街道や朝日連峰等の自然・歴史・文化等の地域資源を活用しながら保全・継承するため、地域住民や関係団体と連携して快適で安全な登山環境の維持や改修整備を行うとともに、六十里越街道を保全する取組を支援します。

さらに、登山客等の二次交通の確保や、パンフレット・ホームページ等の多言語対応などインバウンド誘客の取組に支援し、観光客受入体制の整備を推進します。



六十里越街道沿いに案内看板設置



朝日連峰(以東岳・大鳥池)登山の二次交通

参 考 資 料

1. 鶴岡市及び朝日地域の統計概要

区 分		単位	朝日地域	市全体	
人 口	H17.10.1	人	5,378	143,990	
	R6.2.29	人	3,400 (減少率36.8%)	118,341 (減少率17.8%)	
世 帯 数	H17.10.1	戸	1,318	45,493	
	R6.2.29	戸	1,249 (減少率5.2%)	49,431 (増加率8.7%)	
面 積		平方km	569.17	1,311.51	
就業者数	R2 国勢調査		人	1,975	62,393
		第1次産業	人	275(13.9%)※	5,598(9.0%)※
		第2次産業	人	633(32.1%)※	17,888(28.7%)※
		第3次産業	人	984(49.8%)※	37,544(60.2%)※
販売農家数	R2 農林業センサス		戸	263	3,184
		主業	戸	27	1,014
		準主業	戸	55	608
		副業的	戸	181	1,562
経営耕地面積	R2 農林業センサス		a	73,181	1,550,126
工業事業所数	R3 経済センサス -活動調査		事業所	12	446
商業(卸売業) 事業所数	R3 経済センサス -活動調査		事業所	2	279
商業(小売業) 事業所数	R3 経済センサス -活動調査		事業所	29	1,274
市営住宅	R5.4.1	戸	26	822	
認可保育園	R5.4.1	園・人	1園(園児数 52)	32園(園児数 2,170)	
認定こども園	R5.4.1	園・人	0園(園児数 0)	16園(園児数 1,174)	
学童保育所	R5.5.1	所・人	1所(登録児童数 56)	21所(登録児童数 2,031)	
小学校	R5.5.1	校・人	1校(児童数 118)	26校(児童数 5,333)	
中学校	R5.5.1	校・人	1校(生徒数 79)	11校(生徒数 2,955)	
高等学校	R5.5.1	校	0	8	
医療施設	R5.3.31	所	2 (病院 0) (一般診療所 2) (歯科診療所 0)	158 (病院 6) (一般診療所 103) (歯科診療所 49)	

※就業者には分類不能の産業を含むため、第1次～第3次産業の合計と一致しない

2. 朝日地域人口の推移(地区別5年ごとの比較)

(資料:住民基本台帳/単位:人)

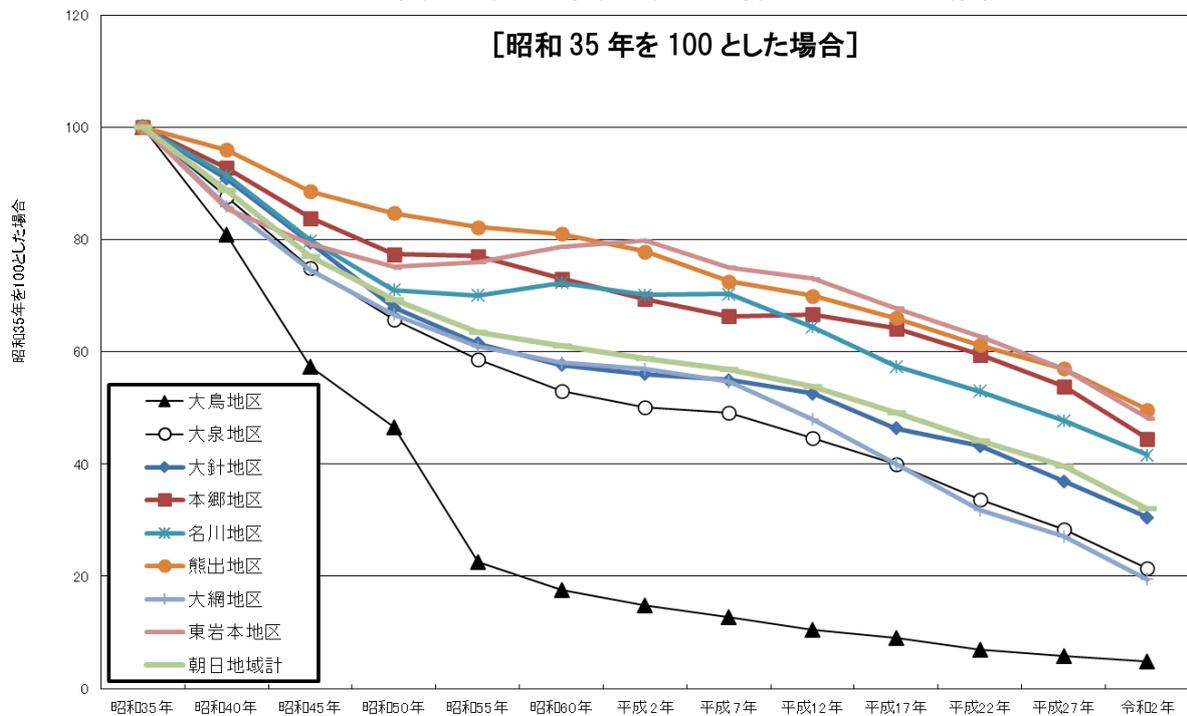
	大鳥地区	大泉地区	大針地区	本郷地区	名川地区	熊出地区	大網地区	東岩本地区	朝日地域計
昭和35年	1,445	1,866	787	2,090	1,300	1,087	1,415	1,325	11,315
昭和40年	1,168	1,636	715	1,939	1,188	1,044	1,216	1,133	10,039
昭和45年	829	1,397	625	1,752	1,038	963	1,055	1,049	8,708
昭和50年	673	1,226	534	1,617	923	921	943	996	7,833
昭和55年	325	1,095	484	1,611	911	894	863	1,007	7,190
昭和60年	254	988	454	1,526	940	881	821	1,044	6,908
平成2年	215	935	441	1,451	912	847	806	1,058	6,665
平成7年	184	916	433	1,387	914	789	774	995	6,392
平成12年	151	833	414	1,394	838	761	679	968	6,038
平成17年	130	745	365	1,342	746	718	566	898	5,510
平成22年	100	630	340	1,243	689	665	450	831	4,948
平成27年	83	529	291	1,126	621	620	384	754	4,408
令和2年	69	399	240	930	541	540	276	639	3,634

* 60年間の

減少数	-1,376	-1,467	-547	-1,160	-759	-547	-1,139	-686	-7,681
減少率	-95.22%	-78.62%	-69.50%	-55.50%	-58.38%	-50.32%	-80.49%	-51.77%	-67.88%

*注:全市人口総計と異なる理由は、熊出地内の施設入所者を除いたため

(昭和35年から令和2年まで)朝日地域人口の推移



3. 朝日地域世帯数の推移(地区別5年ごとの比較)

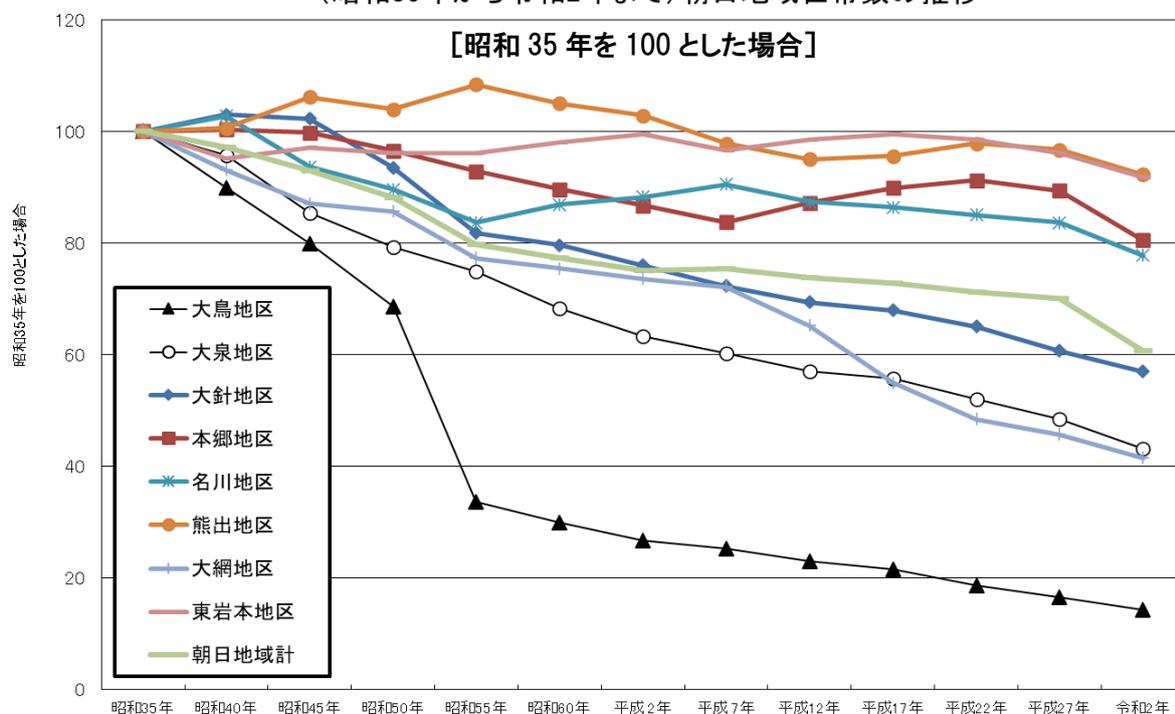
(資料:住民基本台帳/単位:世帯)

	大鳥地区	大泉地区	大針地区	本郷地区	名川地区	熊出地区	大網地区	東岩本地区	朝日地域計
昭和35年	274	327	137	374	220	180	215	206	1,933
昭和40年	246	313	141	375	226	181	200	196	1,878
昭和45年	219	279	140	373	206	191	187	200	1,795
昭和50年	188	259	128	361	197	187	184	198	1,702
昭和55年	92	245	112	347	184	195	166	198	1,539
昭和60年	82	223	109	335	191	189	162	202	1,493
平成2年	73	207	104	324	194	185	158	205	1,450
平成7年	69	197	99	313	199	176	155	199	1,407
平成12年	63	186	95	326	192	171	140	203	1,376
平成17年	59	182	93	336	190	172	118	205	1,355
平成22年	51	170	89	341	187	176	104	203	1,321
平成27年	45	158	83	334	184	174	98	198	1,274
令和2年	39	141	78	301	171	166	89	189	1,174

* 60年間での

減少数	-235	-186	-59	-73	-49	-14	-126	-17	-759
減少率	-85.77%	-56.88%	-43.07%	-19.52%	-22.27%	-7.78%	-58.60%	-8.25%	-39.27%

(昭和35年から令和2年まで)朝日地域世帯数の推移

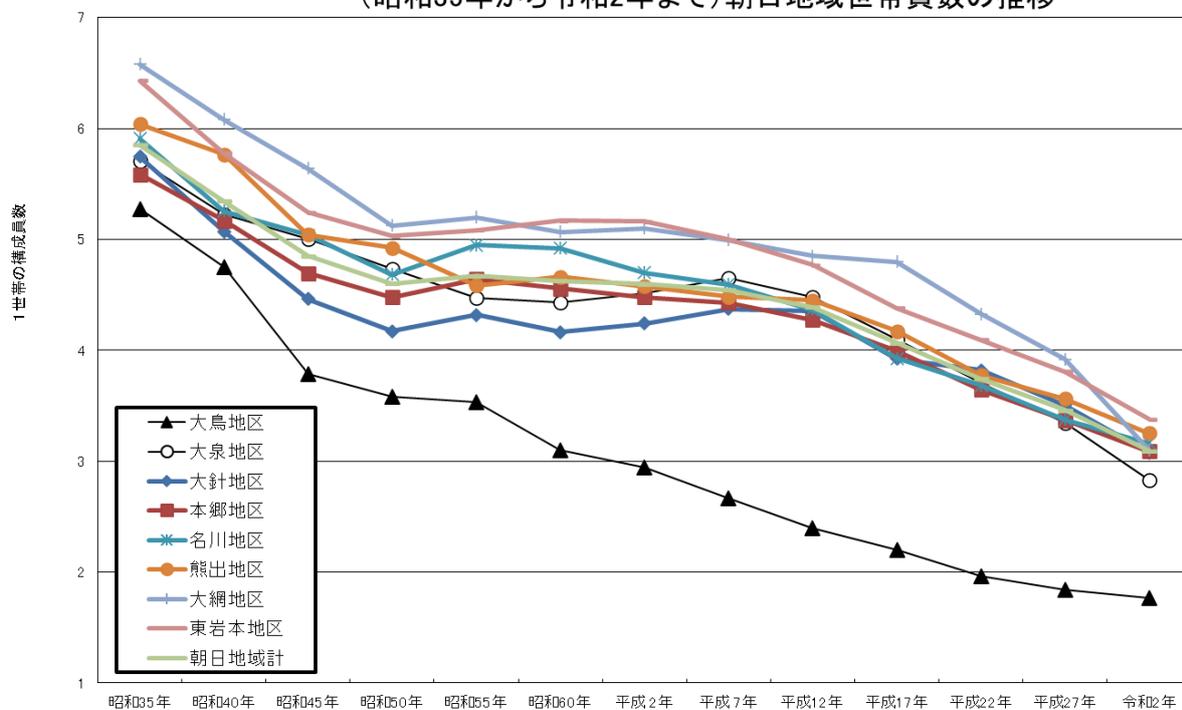


4. 朝日地域の1世帯あたり世帯人員の推移(地区別5年ごとの比較)

(資料:住民基本台帳/単位:人)

	大鳥地区	大泉地区	大針地区	本郷地区	名川地区	熊出地区	大網地区	東岩本地区	朝日地域計
昭和35年	5.27	5.71	5.74	5.59	5.91	6.04	6.58	6.43	5.85
昭和40年	4.75	5.23	5.07	5.17	5.26	5.77	6.08	5.78	5.35
昭和45年	3.79	5.01	4.46	4.70	5.04	5.04	5.64	5.25	4.85
昭和50年	3.58	4.73	4.17	4.48	4.69	4.93	5.13	5.03	4.60
昭和55年	3.53	4.47	4.32	4.64	4.95	4.58	5.20	5.09	4.67
昭和60年	3.10	4.43	4.17	4.56	4.92	4.66	5.07	5.17	4.63
平成 2年	2.95	4.52	4.24	4.48	4.70	4.58	5.10	5.16	4.60
平成 7年	2.67	4.65	4.37	4.43	4.59	4.48	4.99	5.00	4.54
平成12年	2.40	4.48	4.36	4.28	4.36	4.45	4.85	4.77	4.39
平成17年	2.20	4.09	3.92	3.99	3.93	4.17	4.80	4.38	4.07
平成22年	1.96	3.71	3.82	3.65	3.68	3.78	4.33	4.09	3.75
平成27年	1.84	3.35	3.51	3.37	3.38	3.56	3.92	3.81	3.46
令和2年	1.77	2.83	3.08	3.09	3.16	3.25	3.10	3.38	3.10

(昭和35年から令和2年まで)朝日地域世帯員数の推移



5. 朝日地域人口構造の推移(年齢3区分別人口)

【人口】

(資料:国勢調査/単位:人)

	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総計
昭和45年	1,896	5,461	849	8,206
昭和50年	1,333	5,115	938	7,386
昭和55年	1,194	4,651	1,055	6,900
昭和60年	1,283	4,283	1,145	6,711
平成2年	1,237	4,022	1,311	6,570
平成7年	1,098	3,640	1,571	6,309
平成12年	874	3,308	1,682	5,864
平成17年	669	3,026	1,683	5,378
平成22年	509	2,681	1,608	4,798
平成27年	410	2,271	1,614	4,295
令和2年	328	1,737	1,639	3,704

【構成比】

(資料:国勢調査/単位:%)

	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総計
昭和45年	23.1	66.5	10.4	100.0
昭和50年	18.0	69.3	12.7	100.0
昭和55年	17.3	67.4	15.3	100.0
昭和60年	18.9	63.8	17.3	100.0
平成2年	18.8	61.1	20.1	100.0
平成7年	17.4	57.7	24.9	100.0
平成12年	14.9	56.4	28.7	100.0
平成17年	12.4	56.3	31.3	100.0
平成22年	10.6	55.9	33.5	100.0
平成27年	9.5	52.9	37.6	100.0
令和2年	8.9	46.9	44.2	100.0

6. 高齢化率の推移

(資料:国勢調査/単位:人、%)

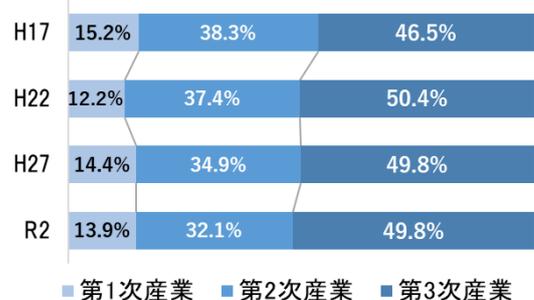
		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
市全体	人口①	149,509	147,546	142,384	136,623	129,652	122,347
	65歳以上人口②	30,647	35,020	37,630	39,222	41,303	43,003
	高齢化率②/①	20.5	23.7	26.4	28.7	31.9	35.1
朝日地域	人口①	6,309	5,864	5,378	4,798	4,295	3,704
	65歳以上人口②	1,571	1,682	1,683	1,608	1,614	1,639
	高齢化率②/①	24.9	28.7	31.3	33.5	37.6	44.2

7. 産業別就業者数の割合の推移

(資料:国勢調査/単位:%)

		平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
第1次産業	市全体	10.7	10.0	9.4	9.0
	朝日地域	15.2	12.2	14.4	13.9
第2次産業	市全体	31.2	29.8	28.5	28.7
	朝日地域	38.3	37.4	34.9	32.1
第3次産業	市全体	57.9	59.6	60.3	60.2
	朝日地域	46.5	50.4	49.8	49.8

産業別就業者数の割合(朝日地域)



8. 産業別(大分類)15歳以上就業者数の推移

(資料:国勢調査/単位:人)

地域別	調査年	15歳以上 就業者数	第1次産業			第2次産業			第3次産業					
			農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	うち卸売・ 小売業	うち飲食店・ 宿泊業	うち医療・ 福祉			
市全域	H17	71,557	7,656	7,193	63	400	22,292	61	7,324	14,907	41,463	11,404	3,746	6,668
	H22	65,987	6,566	6,060	147	359	19,645	61	6,030	13,554	39,298	10,014	3,909	7,872
	H27	64,816	6,095	5,667	119	309	18,457	57	5,782	12,618	39,089	9,147	3,718	9,111
	R2	62,393	5,598	5,222	104	272	17,888	50	5,492	12,346	37,544	8,457	2,326	9,321
朝日地域	H17	2,709	411	395	15	1	1,038	2	463	573	1,260	326	95	232
	H22	2,326	283	258	25	0	871	1	359	511	1,172	274	98	267
	H27	2,257	325	302	23	0	788	2	322	464	1,123	244	91	310
	R2	1,975	275	264	11	0	633	1	280	352	984	230	67	260

※就業者には分類不能の産業を含むため、第1次～第3次産業の合計と一致しない

9. 朝日地域の総農家数

(資料:農林業センサス/単位:経営体)

	朝日地域	市全域
昭和35年	1,106	
昭和40年	1,109	
昭和45年	1,100	
昭和50年	1,033	10,970
昭和55年	983	10,398
昭和60年	894	9,483
平成2年	803	8,609
平成7年	764	7,614
平成12年	701	6,944
平成17年	639	6,428
平成22年	564	5,651
平成27年	483	4,972
令和2年	416	4,328

【再掲】

朝日地域の地域別農家数(旧村単位)

(資料:農林業センサス/単位:経営体)

	本郷	大泉	東	朝日総数	減少率
平成17年	303	114	222	639	—
平成22年	272	100	192	564	-11.74%
平成27年	229	84	170	483	-14.36%
令和2年	206	71	139	416	-13.87%

10. 朝日地域の経営耕地規模別農家数

(資料:農林業センサス/単位:経営体)

	0.5ha未満	1.0ha未満	2.0ha未満	3.0ha未満	3.0ha以上	例外規定	総数
昭和60年	182	197	297	155	62		893
平成2年	132	185	278	137	71		803
平成7年	160	173	260	107	64	2	766
平成12年	154	164	216	101	64		699
平成17年	76	127	192	82	62		539
平成22年	79	112	137	47	68	1	444
平成27年	31	90	102	54	65	1	343
令和2年	37	66	69	34	60	3	269

11. 朝日地域の経営耕地面積

(資料:農林業センサス/単位:ヘクタール)

	田	畑	樹園地	総計	変化率
昭和35年	931	147	27	1,105	—
昭和40年	949	130	56	1,135	2.71%
昭和45年	985	127	72	1,184	4.32%
昭和50年	987	120	114	1,221	3.13%
昭和55年	1,024	110	107	1,241	1.64%
昭和60年	1,023	80	125	1,228	-1.05%
平成2年	1,026	93	94	1,213	-1.22%
平成7年	936	65	81	1,082	-10.80%
平成12年	886	66	59	1,011	-6.56%
平成17年	792	40	58	890	-11.97%
平成22年	626	40	57	723	-18.76%
平成27年	613	40	46	699	-3.32%
令和2年	644	44	43	731	4.58%

12. 朝日地域の販売農家数

(資料:農林業センサス/単位:戸、%)

	農家数			構成比		
	主業	準主業	副業的	主業	準主業	副業的
昭和60年	16	146	732	2	8	89
平成2年	11	36	676	2	10	86
平成7年	13	76	585	2	11	84
平成12年	16	52	536	3	5	85
平成17年	30	48	456	6	10	80
平成22年	49	44	333	12	38	50
平成27年	44	55	229	16	29	55
令和2年	27	55	181	10	21	69

13. 朝日地域の男女別・年齢階層別農家人口

(資料: 農林業センサス/単位: 人)

【男性】		総数	14歳以下	15～29歳	30～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上
	平成12年	1,530	244	269	365	301	217	134
	平成17年	1,296	168	223	264	312	164	165
	平成22年	958	119	142	184	252	118	143
	平成27年	695	77	81	136	175	122	104
	令和2年	530	58	46	113	96	132	85

【女性】		総数	14歳以下	15～29歳	30～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上
	平成12年	1,668	252	262	376	286	252	240
	平成17年	1,404	176	215	281	270	199	263
	平成22年	1,039	114	149	167	238	128	243
	平成27年	736	65	87	126	181	108	169
	令和2年	513	41	42	81	114	99	136

【総計】		総数	14歳以下	15～29歳	30～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上
	平成12年	3,198	496	531	741	587	469	374
	平成17年	2,700	344	438	545	582	363	428
	平成22年	1,997	233	291	351	490	246	386
	平成27年	1,431	142	168	262	356	230	273
	令和2年	1,043	99	88	194	210	231	221

14. 農産物販売金額規模別経営体数

【市全体】

(資料: 農林業センサス/単位: 経営体)

調査年	50万円未満	50-100万円	100-200	200-300	300-500	500-700	700-1000	1000万円以上	計
平成12年	884	767	1,103	863	1,039	655	413	414	6,138
平成17年	889	695	1,047	744	874	455	365	417	5,486
平成22年	656	631	832	636	709	420	348	354	4,586
平成27年	753	490	714	503	572	318	310	375	4,035
令和2年	498	336	801		541	646		499	3,321

【朝日地域】

調査年	50万円未満	50-100万円	100-200	200-300	300-500	500-700	700-1000	1000万円以上	計
平成12年	155	124	187	79	34	16	6	3	604
平成17年	173	108	136	63	33	12	7	5	537
平成22年	169	104	82	33	26	13	8	9	444
平成27年	123	76	73	25	26	5	4	11	343
令和2年	91	43	90		17	17		11	269

15. 朝日地域の主要な観光地・施設等の入込客数推移(延べ人数)

(資料:朝日庁舎産業建設課調べ/単位:百人)

観光地・施設等	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
朝日連峰(大鳥口)	84	109	117	113	90	74	73	20	63	23
月山(湯殿山口)	88	93	95	95	95	77	77	40	42	40
摩耶山(倉沢口)	13	18	21	21	21	24	24	0	15	15
湯殿山神社本宮	756	956	903	918	895	818	818	366	686	549
多層民家(旧遠藤家)	67	67	66	58	59	48	45	31	15	12
大日坊	140	154	255	215	204	168	165	89	102	109
注連寺	120	134	127	120	115	88	70	14	0	0
六十里越街道	48	52	55	53	51	51	50	24	24	30
湯殿山スキー場	354	336	326	347	268	295	478	246	227	272
月山あさひ博物村	291	444	468	499	576	568	445	303	379	433
かたくり温泉ぼんぼ	674	675	594	517	600	634	599	420	463	315
荒沢ダム	66	66	58	60	61	47	48	23	11	17
月山ダム(展望台)	373	381	386	382	353	315	307	138	147	227